

平成 22 年度 京都府立加悦谷高等学校 学校経営計画(総括)

平成 23 年 3 月 16 日  
京都府立加悦谷高等学校

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「ハイレベルな文武両道」を追求し、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>2 「地域に根ざした学校」として、地域の信託と期待に応える学校づくりを目指す。</p> <p>3 生徒、自らがつくる「安心・安全」な学校づくりを目指す。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 「進化加悦高！2010」の取り組みにより、全類での7校時実施、新たなカリキュラムの編成など、府の高校改革を見据えた改善を行った。</p> <p>2 160 通りの、個に応じた丁寧な進路指導を目指した加悦高式「キャリア教育」の実践により、100%の就職内定、30 名を超える国公立大学合格者など大きな成果を上げた。</p> <p>3 80%近い入部率の中で、多くの部が活発に活動し、書道部・陸上競技部やウエイトリフティング部など全国や世界大会のレベルで活躍する選手を排出した。</p> <p>4 「授業力向上」教職員研修、公開授業旬間などが定着し、授業力向上に向けての日常的な活動が見られた。</p> <p>【課題】</p> <p>1 課題を抱えた生徒に対しての、学習指導や生徒指導上の全校的な取組を実施する。</p> <p>2 特別支援を必要とする生徒の入学により、生徒も含んだ支援活動を実施する。</p>	<p>1 新たなカリキュラムを円滑に実施し、学習と部活動を両立させた「ハイレベルな文武両道」の学校づくりを推進する。</p> <p>2 加悦高式「キャリア教育」を展開し、160 通りの丁寧な進路指導を通じて、一人ひとりの進路実現を図る。</p> <p>3 PTA 活動・サタデー広場事業・ジラソーレなどの活動や広報活動を年間通じて行い、地域に開かれ、支持される学校づくりを推進する。</p> <p>4 特別支援を必要とする生徒の入学を契機に、特別支援教育・人権教育のさらなる定着を図る。</p> <p>5 課題のある生徒への指導を全校的な取組の中で実施する。</p> <p>6 恒常的な「授業力」の向上に取り組み、課題に応じた研修等を行うことにより、指導力の向上を図る。</p> <p>7 日常的な点検活動を行い、安全・安心な学校施設・設備の充実を図る。</p>

分掌・教科の 評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・「進化加悦高！2010」の取り組みを通じて、さらなる学校の活性化を図る。	・新カリキュラムの円滑な実施を全校的にを行い、学校のさらなる活性化を図る。	A	1 年次新カリキュラムの実施及び全類週 3 回 7 校時を含む新校時等の実施を円滑に行うことができた。 平成 24 年度以降の加悦谷高校の新しい学校像を打ち出すことができた。 募集活動を恒常的に行う体制ができ、体験セミナー・学校公開に多くの中学生を集めることができた。 加悦谷高校の特色を明確にし、広報募集活動を工夫し、全校挙げて広報募集活動を行う必要がある。
		・平成 23 年度入学生に向け、クラス編成等を見直し、加悦谷高校の新しい学校像を打ち出す。	A	
	・広報・募集活動や地域連携の活動を強化し、中学生や保護者、地域の人々に支持される学校づくりを行う。	・丹後通学圏(舞鶴を含む)の中学校に、広報・募集活動を恒常的に行う。	A	
		・体験セミナーに 350 名の中学生の参加を目標とし、実施する。	A	
		・学校公開に 100 名の中学生・保護者・地域の方々の参加を目標とし、実施する。	A	
事務部	・円滑で適正な窓口業務を行う。	・サタデー広場活動事業や小中学校への「出前授業」の実施、総合型地域スポーツの支援などを通じて地域連携を深める。	A	
		・親切・丁寧な対応を心掛け、信頼される事務手続きを行う。 ・保護者、教職員との連携の中で、的確な就学援助を行う。	B	

	・学校経営方針に基づく予算執行と適正な会計管理に努める。	・学校行事等への積極的な参加により、状況把握に努め、教科・分掌とも連携し、有効な予算執行を行う。	B	B		校内巡視は適宜実施したが、定期的ではなかった。日にちを決めて実施するようにする。
		・会計規則等を遵守し、適正な会計管理を行う。	B			
	・校内の安心・安全な教育環境を整備する。	・定期的な校内巡視を実施し、安心・安全な環境整備に努める。	B	A		環境整備については、安心・安全を第一に考え、早期に対応ができた。
		・校内施設・設備の修理・修繕に早期に対応する。	A			
教務部	・「授業力向上」の取組を継続発展させ、類・類型に応じたきめ細かな学習指導を行い、学力の向上を目指す。	・公開授業週間を3回実施し、授業改善につなげる。	B	B	公開授業週間や授業力向上研修等、数年来取組んできた取組が改善を加えつつ軌道に乗りつつあるので、さらに発展させたい。授業アンケートや実態調査の結果分析を生かして生徒の学習意欲を高める指導の充実を図る必要がある。プレゼンテーション大会を有効に活用して探究活動の充実に結び付く取組をさらに強化する必要がある。幅広い学力層の生徒に組織的かつ個別にしていねいに対応することができた。	
		・外部講師による授業力向上のための研修会を年2回実施する。	A			
		・研究授業月間を1回設定し、各教科が独創的な授業展開の追及を目標とした研究授業を行い、授業力の向上を図る。	B			
		・授業アンケート(年2回)と学習時間・生活実態調査(年3回)を実施し、授業改善に役立てる。	B			
		・授業を大切に、自らの学力を意欲的に高める意識をつけさせる。	B			
	・探求活動を幅広く採り入れる。	・プレゼンテーション大会を継続・発展させ、探求活動の充実を図る。	B			B
第1学年部	・基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚を促す。	・遅刻防止とベル着を徹底し、時間や期限に対する意識を高める。	B	B	全体として、根気よく指導ができた。 課題 ・密な保護者連携 ・強い学年集団 ・基本的な生活習慣の向上 挨拶、服装 提出物、授業態度、家庭学習 自主性、主体性、社会性	
		・挨拶、見だしなみなどの基本的なマナーを定着させるため、家庭や生徒指導部と連携して日常的に指導する。	B			
	・基礎学力の充実と3年間を見通した進路指導を展開する。	・教科担当と連携し、適切な課題を与え、家庭学習の習慣化を図る。	B			B
		・日常の授業や補習などで基礎学力の充実を図る。	B			
	・HR活動、学校行事等を通して、充実した集団づくりを目指す。	・学校行事、学年行事(学年球技大会、百人一首大会等)を活用し、まとまりのある集団づくりに努める。	A			B
		・日常的に生徒との面談を行う。各学期に1回は個人面談を行う。さらに、夏季休業中に3者面談(担任・保護者・生徒)もしくは2者面談(担任・保護者)を実施し、家庭との連携を密にとり、保護者と連携して生徒の指導にあたる。	A			
	・人権学習やボランティア活動等を通し、人権を尊重し互いに助け合い、社会に貢献できる人格形成と集団づくりを目指す。	B				
第2学年部	・基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚を促す。	・遅刻防止とベル着を徹底し、時間や期限に対する意識を高める指導を継続する。	B	B	多様な生徒に対応するため、個別に応じたきめ細かい継続的な指導と教員間の連絡協議を続けてきた。成果はなかなか目に見えてこないが、学年団として一定の共通認識を得ることができた。さまざまな場面で、どのような言動をとる	
		・挨拶、身だしなみから、学校生活の各場面に応じたけじめのある態度や周囲に配慮した言動など、基本的なマナーを定着させるため、家庭や生徒指導部と連携して日常的に指導する。	C			
	・基礎学力の充実と、自分を知り社会の職業を調べて、希望進路	・教科担当と連携し、適切な課題を与えるなどして、家庭学習の習慣化を図る。	B			B

	の具体化を目指した学習指導・進路指導を充実する。	・原級留置、中途退学を防ぐために、定期考査前等に基礎学力の充実を図る。	B	B	べきか、また、将来を考えてどのような進路を選択するのか、繰り返し指導した。部活動では中核となり、生徒会においても執行部に多数参加するなど、少しずつ歩みを進めている。
		・自分特性を知り、社会の様々な職業・職種を調べながら、希望進路を具体的に考えさせる。	B		
	・HR 活動、学校行事等を通して、充実した集団づくりを目指す。	・学校行事、学年行事(学年球技大会、修学旅行等)を活用し、まとまりのある集団づくりに努める。	B		
		・日常的に生徒との面談を行う。学期毎に少なくとも1回は個人面談を行う。さらに、夏季休業中に3者面談(担任・保護者・生徒)もしくは2者面談(担任・保護者)を実施し、家庭と密接に連絡を取って保護者と連携して生徒の指導にあたる。	B		
		・人権学習やボランティア活動等を通し、社会における自分の立ち位置を考えさせ、社会に貢献できる人格形成と集団づくりを目指す。	B		
第3学年部	・最高学年としての自覚を促し、規律ある生活習慣を確立する。	・学校生活のルール(服装・遅刻・欠席・携帯電話など)の順守指導を担当団だけでなく他分掌とも連携して行う。自立した生活を送ることができるよう自覚を促す。	B	B	学校祭では、リーダーシップを発揮し下級生をよく引っ張り、成功に貢献することができた。進路指導面では進路指導部・各教科の担当者との連携し、個人指導を行うことにより一定の成果が得られた。進路決定後、とりわけ指定校で決定した者の一部に、気が緩み、学校生活・授業態度の乱れる生徒がいた。生活面で気になる生徒への指導や盗難対策などにおいて、他分掌との連携をいっそう密にしていく必要を感じた。
		・計画的に、また必要に応じて生徒面談や保護者面談を行い、生徒の生活実態や進路希望などをきめ細かく把握し、保護者と連携して生徒を指導する。	B		
	・一人ひとりの希望進路実現を目標に教科指導や生活指導を行う。	・進路希望調査や面談を通して、進路希望を細かく把握する。	A		
		・教科担任と連携して多様な進路補習を実施したり、模擬面接等を計画的に実施し、進路実現をサポートする。	A		
		・進路指導部と連携を密にし、個に応じた指導を行う。	A		
	・HR 活動、学校行事等を通して、一体感のある集団づくりをする。	・校内球技大会、学校祭などの学校行事や生徒会活動に参加させ、積極的に取り組ませる中で、まとまりのある集団作りに努める。	B		
		・進路決定後の生徒に対して、学習や生活をおろそかにすることなく、さらに周囲への配慮ができるように指導する。	B		
	保健部	・命を大切に、健康で安全に生き抜く力を養成する。	・支援を要する生徒に対し、早期にきめ細やかな対策を行う。		
・スクールカウンセラーの活用において、関係分掌、保護者など連携を密にする。			B		
・保健学習を充実させ、性教育、薬物乱用防止教育など、実践的な知識を理解させる。			A		
・校内の安全点検を行い、学習環境の充実を図る。			B		
・自主的な校内美化の促進に努める。		・教職員、生徒一人一人が美化に努める。	B		
	・ゴミ分別を通して資源の有効活用を推進する。	A			
生徒指導部	・「時を守り、場を清め、礼を正す」	・1ヶ月3回の遅刻により生徒指導部長面談を行い、時間厳守の徹底を図る。	B	B	成果

	を実践する。	・昼休みの校内巡視を実施し、良好な校内環境の維持に努める。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「服装指導週間」と「服装指導報告」による服装指導で、夏季制服のシャツ出しを減少させることができた。</li> <li>・校内巡視によって、昼休み時間における生徒の様子を把握し、カード・ゲーム・携帯電話等の使用を注意する機会を増やすことができた。</li> <li>・さわやかハートプロジェクト予算を活用した「阿蘇海一周清掃活動」や自転車道清掃活動など、生徒会を中心にボランティア活動に取り組むことができた。</li> </ul>
		・「服装指導週間」を設定し、朝の立ち番で適正な着こなしを指導するとともに、あいさつの励行を促す。	B		
	・部活動を充実させる。	・クラブ加入率80%を目指す。	C		
		・クラブ活動参加が低調な生徒は、顧問・担任等で面談を行い参加を促す。	C		
	・生徒会活動を充実させる。	・学校祭等の生徒会行事に積極的に取り組ませる。	A		
		・ボランティア活動を充実させる拠点となる取り組みを活動に組み入れる。	B		
・学校全体の規範意識を高める役割を担える生徒会にする。		B			
進路指導部	・新たなカリキュラム実施に即応した恒常的な「授業力」向上の強化を図る。	・1年次での基礎学力の大幅な伸長を目標に体制を整備する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「府実力テスト」等の基礎学力の伸長幅がやや停滞しており、今後の課題となっている。今後の多様化する生徒の願いに応えるため、個々の生徒の手立てを一層きめ細かく行う必要がある。</li> <li>・9月選考時での就職内定は実現したものの、次年度は一層の困難が予想される。府下トップ級を目指して「就職支援」の徹底に努めたい。</li> <li>・多様な各種ガイダンスを系統的に実施したが、「学び」の深化につながったかどうかの検証には至っていない。</li> <li>・指定校決定後の生活の「崩れ」が多く見ら</li> </ul>
		・教務部等との連携を図り、予備校等の授業見学等を実施する。	B		
	・加悦高式「キャリア教育」を展開する。160通りの丁寧な進路指導を実施する。	・1・2年学年部等との連携を密にし個々の生徒の手だてを検討する。様々な「気づき」の場面を与え「160通りの個別指導」を一層徹底する。	B		
		・「百年に一度の大不況」の状況に対して「百年に一度の就職支援」や地元企業等への求人要請を積極的に進め、9月選考時での就職希望者全員の就職内定を実現する。	B		
	・加悦高式「キャリア教育」を計画的に実施し、「社会に貢献する」人材を育成する。	・3年目になる「地域人授業」を更に継続・発展させる「地域」を愛する心情を育む。	B		
		・多様な各種ガイダンスを系統的に実施し、生徒の“学び”への意欲を喚起させる。とりわけ、自ら学び、自ら調べ、発表する取組を通じてプレゼンテーション能力の向上を図りたい。	C		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な進路情報を幅広く収集整理し、生徒の就学を保障する手だてを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育系大学等の『学校案内』や『研究紀要』を整備する。「スポーツ健康科学系大学」ガイダンスを実施する。</li> <li>「援護制度」等をきちんと紹介し、周知徹底を図る。</li> </ul>	B	B	れた。次年度は進路決定後の指導の在り方について検討したい。
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の人権尊重を基本理念とし、共生意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年団と連携をとりながら段階的、系統的な人権学習を推進する。</li> <li>与謝の海養護学校との交流会を継続、発展させる。</li> </ul>	A	A	策通り進めることができた。館内整備については年々改善され、読書意欲喚起につながるような様々な工夫がなされた。「あおやぎ」の定期発行も確立し、内容も充実している。例年通りの取り組みをこなすことはできたが、着付け、染色等、一部の役員さんに負担をかけ、全体のものにならなかった
	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書習慣を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あおやぎ」の月1回の発行と親しみやすい館内整備に努め、読書意欲の喚起に努める。</li> </ul>	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と地域との連携を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA活動「きもの着付け教室」「染色教室」「学校祭バザー」等、継続発展させる。</li> <li>広報活動を通して地域に開けた学校作りに努める。</li> </ul>	B	B	
類体育系	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦入試志願者 28 名以上を目標に、早期から広報活動を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「類体育系だより」を年間 5 回(4 月、7 月、10 月、12 月、3 月)発行し、管内中学校3年生全員に配布する。</li> <li>6月に管内中学校の教員を対象に説明会を実施するとともに中学校との連携を密にする。</li> <li>10月に参加者60名を目標にして中学校3年生対象説明会を実施する。</li> </ul>	B	B	「類体育系だより」を4月、7月、10月に発行し、管内中学校3年生に配布した。12月は発行できず、3月は発行予定。6月に管内中学校の教員対象説明会を実施した。10月には、中学校3年生を対象に説明会を実施し、50名の参加であった。部活動への参加が課題となっている類所属の生徒を対象に個人面談を実施した。部活動出席簿を導入しているが、活用の仕方さらに工夫が必要である。スポーツドクターによる講義を1・2年生の類生徒を対象に11月、1月に実施した。また、2年生を対象にした、栄養指導も行ったが、対象を1年生にも拡大すること、生徒の意識改革等が課題である。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>類生徒全員の進級・卒業を目標に、落ち着いて授業に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会議等を活用して類生徒の実態を共有し、課題がある場合には早期に対応策をとる。</li> </ul>	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>類生徒の部活動への定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「部活動出席簿」を導入し、顧問と担任、体育科内の連携を図る。</li> </ul>	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技力の向上を図るとともに、地域のスポーツ振興に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の部活動への定着を図り、「スポーツドクター」「栄養指導」なども活用する。</li> </ul>	A		
国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読む」「書く」「聞く」「話す」の言語能力を養い、国語力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なジャンルの評論文や小説にふれることで言語能力を高め、小論文指導等をおして、論理的思考力を育成する。</li> <li>対策プリント等を活用し、漢字検定の受検を促進する。</li> </ul>	B	B	研究授業に向けて、作品研究に取り組むことができた。11月よりももう少し時間的な余裕がある時期のほうがより良いと思われる。漢字検定の受検者数を増やすことができた。外部から講師を招き、小論文指導に取り組めたことはよかったが、日常的に授業の中で指導することが難しい。また、対象クラス・内容を検討する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書指導を積極的に行い、語彙力の向上と豊かな感性の涵養を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他分掌と連携し、図書の出借冊数の調査や読書感想文の指導等を行い、読書意欲を向上させる。</li> <li>それぞれの授業の中で読書の時間を設定する。</li> </ul>	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査作成にあたっての担当者間の意見交換や、公開授業、各種研究会への参加を積極的に行う。</li> <li>教科会議等を利用して、共通の題材について作品研究をする時間を持つ。</li> </ul>	A	A	

地歴公民科	・生徒の実情・小教科の特色に応じた授業力の向上に努める。	・定期考査の交換や校内での授業公開を積極的に進め、授業方法の改善に努める。	A	B	教科会議を定例化し、そのつどの課題や教科指導の状況交流に努めた。その中で、定期考査や授業のしかた、類による違い或いは類間共修の講座の指導や評価の在り方について検討した。地理の 類クラスで調べ学習に取り組みさせた。また、3年の現代社会においてはテーマ学習の観点でテストも論述問題を増やすなどの工夫をした。高大連携の取り組みに比べ中高連携について課題を残した。予備校の授業に参加し授業力の向上に努めた。	
		・大学・中学との連携を図り、教員の研修を深めることで授業力の向上を図る。	B			
	・生徒一人一人の基礎学力の向上を図る。	・マンネリ化にならぬよう、生徒の変化や学力状況に応じた指導を工夫する。 定期考査直後に、成績状況や授業姿勢などを交流し学力向上の方途を探る。	B	B		
・自ら学び考える主体的な学習姿勢の育成を図る。	・地理Aや現代社会の授業の中で調べ学習や小論文などを課すことで主体的な学習の場を作り出す。	A	B			
数学科	・発展的な問題に対し、自ら問題を解決しようとする姿勢を育成する。	・入試問題や模擬試験での過去問を提示し、ノート提出等で点検する。 ・習熟度講座では、特に発展の講座において、応用的な問題を積極的に行う。	B	B		今年度、初めて1年生 類共修を実施したが、講座分け、定期考査、評価方法等について、教科会議を活用し、工夫して実施することができた。 自ら学ぶ姿勢を養い、学習習慣を確立させる取り組みを継続していく必要がある。 個々の生徒の学習状況等について、担任、学年団との連携を強化していく必要がある。
	・学年部と連携し、学習習慣を確立させる。	・担任と連携し、個々の生徒の目標に応じた課題を与える等、学習習慣の確立を図る。さらに、自ら学ぶ姿勢・態度を養う。	C	C		
	・基礎学力が不足している生徒への指導を強化する。	・過年度追認への指導を強化し、単位を修得させる。 ・長期休暇中や定期考査前に呼び出し指導するなど、成績不振生徒に対して補充指導を効果的に行う。	B	B		
			B	B		
理科	・教科指導力(授業力)を向上させる。	・研究授業において同一小教科・同一単元の教授方法について比較検討し、より良い教授方法を確立する。 ・実験・実習・演習を含めた教材研究や実践方法について、定期的に教科会議を開き情報交換を行う。	B	B	授業力向上研修や実験的な授業(分子モデルを使った授業)では動画や模型の活用といった新しいことに取り組めた。 教材研究や実践方法についての交流は、さらに進める必要がある。 課題提出は、各小教科で取り組めた。 教科会議はほぼ毎週開催できた。生徒情報の交換はできたと思うが、それを踏まえてどう指導するかまでは進められなかった。 教科に関する情報収集は、各教員で行っているが、その交流まではできなかった。 実験は地学以外の教科ではあまりできなかった。休業中の補習で実施することも考えたい。	
	・生徒の実態に応じた授業内容を設定する。	・研究会や各種情報媒体(書籍・テレビ・インターネットなど)から情報を積極的に収集し、知識・教養を高める。また、その情報の交流を図る。 ・生徒の実態に応じた学習内容の精選および学習順序の工夫を行う。	B	B		
	・きめ細かな個別指導を行う。	・課題提出や小テストをきめ細かく実施し、生徒の理解状況を把握する。 ・授業の規律が保たれるよう、目配り、声かけを行う。 ・遅れがちな生徒に対して、必要に応じて個別指導を行う。	B	B		
			B	B		
			B	B		
保健体育科	・生涯にわたり、心身ともに健全な生活基盤を育成する。	・保健学習などを通して、健康で安全な生活を送る知識を身につける。 ・体づくり運動や各種運動を継続し、体力を向上させる。	B	B	保健、体育共に一定の活動ができた。 今後の課題 ・保健課題学習のテーマを絞り込み、内容を検討する。	
	・自主的な活動を実践する。	・授業に積極的に取り組む姿勢を養う。 ・自己の特性を理解し、選択授業など、自ら考え活動する。	B	B		
			B	B		
			B	B		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類生徒の学力と部活動を両立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣で授業態度の改善と向上を目指す。</li> <li>・ 学習と部活動の定着で、学力と競技力の向上を図り、幅広い進路を実現する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択体育種目を検討し、内容を充実する。</li> <li>・ 類生徒の基本的な生活習慣を定着させ、授業態度の向上を図る。</li> </ul>	
芸術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽の基礎力を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌唱・読譜力・理論の学習を通して基礎力を充実させる。</li> </ul>	B	B	<p>ほぼ計画どおり取り組めた。</p> <p>本学期に関しては課題をやり切ることで精一杯で相互鑑賞の時間を持つことができなかったが、参考作品の提示は出来た。</p> <p>例年以上に教材の精選に取り組んだが生徒作品に関しては丁寧さ、技術面、完成度に劣る作品が少なくなかった。作品を制作する際のこだわりや、何事にも誠実に心を込めて取り組ませる指導が課題である。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌唱力分野における発声技術と表現力を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒個人の発表を通しての相互評価とソフトの観賞合評会を実施し、歌唱表現への理解を深めさせる。</li> </ul>	B	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意図に応じた創造的な表現の技能を高めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考になる作品・書籍・ポスターなどを活用し、個々の表現方法の幅を広げる。</li> </ul>	B	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯にわたり美術を愛好する精神と鑑賞力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の鑑賞時間を設け、お互いの個性を尊重し認め合う中で、作品を作り出す喜びを理解させる。</li> </ul>	B	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書の基礎的技法と鑑賞力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典臨書を通して技法を習得し多様な美を認識する。</li> </ul>	B	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美を創造、観賞することにより豊かな感性、人間性の育成につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に展示、鑑賞できる教材、および生徒の内面を引き出せる教材を精選し、表現する喜びを理解させ、生涯にわたり書を愛好する心を育成する。</li> </ul>	B			
英語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語・文化に対する理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の実態をふまえた教材を精選し、基礎基本を徹底させる。</li> <li>・ 適切な課題を与えて、予習・復習の習慣を身につけさせる。</li> </ul>	B	B	<p>きめ細かな教材作成により、分かりやすい授業を展開して生徒の学習を支えた。</p> <p>日々の添削や小テストで力を養った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類共修により 類の学習進度が遅れ、次年度に課題を残した。7 限効果少なし。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語のコミュニケーション能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ティームティーチングの授業を最大限に活用する。</li> </ul>	C	B		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの英文を与えることにより、情報を理解する能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実用英語技能検定試験の受験を奨励する。</li> </ul>	B		B
				A		
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活を創造する能力と実践的な態度を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な価値観に触れ、自分の生活について考えさせる。</li> <li>・ 実験・実習を通して、生活に必要な知識・技術を修得させる。</li> </ul>	B	B	<p>どの学年・講座も落ち着いた状態で実習に取り組めた</p> <p>レポートの期限内提出の徹底ができず成績不振者を出すことになってしまい、次年度はレポートの内容・提出の仕方も含めて考える必要がある</p> <p>数少ない研修会に参加できず、情報収集が年に2回のブロック会議のみとなってしまった。来年度は積極的に研修会に参加し、そこで得た内容を自分の授業に取り入れていきたい</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的に学習する力をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備物点検を実施する。</li> <li>・ 作品・レポートの期限内提出を徹底する。</li> </ul>	B	B		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業力の向上を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修会、ブロック会議等から情報を収集し、活用していく。</li> </ul>	C			
情報科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度情報化社会に対応できる情報活用能力(情報リテラシー)の育成に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報メディアを通して、主体的に自分の意見等を的確に表現できるよう、授業内容を工夫する。</li> </ul>	B		B	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業及び総合的な学習の時間を通して、情報モラルなど倫理観の育成に努める。</li> </ul>	B	B		

		・生徒一人一人の理解状況を的確に把握して、きめ細かな指導ができるよう、担当者の連携を推進する。	A			
	・コンピュータ及びコンピュータ教室の使用を円滑に行う。	・日常的な使用規律を確保し、管理・運営、機器の安定稼働に努める。	A	A		
商業科	・情報機器に慣れ親しみ、文書やデータの作成・整理・保存等の処理についての素養を身につける。	・ワード、エクセルの基本操作、技術を身に着け、様々な処理ができるようにする。	B	B	B	ワープロ実務検定2級を7名が受検し、全員合格であった。就職試験において、資格取得も重要であるという意識を持たせたい。
		・ワープロ実務検定等の検定を受検させる。	B			
次年度への改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の加悦谷高校」という特色を前面に打ち出す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域のボランティア活動を強化する。</li> <li>(2) 「出前授業」・ジラソーレ(加悦谷高校を拠点とした開放型地域スポーツクラブ)等の活動を全校挙げて行う。</li> </ul> </li> <li>・地域や保護者から信頼される生徒指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「時を守り、場を清め、礼を正す」という生徒指導の基本の徹底を図る。</li> <li>(2) 地域の巡視等を行い、学校外での生徒指導を強化する。</li> </ul> </li> </ul>				